

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2572300024		
法人名	社会福祉法人 近江ちろば会		
事業所名	グループホーム ぼだいじ		
所在地	滋賀県湖南市菩提寺327-16		
自己評価作成日	平成30年12月4日	評価結果市町村受理日	平成31年1月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店2階		
訪問調査日	平成30年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・年齢層が厚い職員体制で支援をさせていただいています。若い職員と熟年職員が切磋琢磨しより良い支援を目指しています。 ・昨年1年間、自律支援に取り組み、入居者様と共に動く、働く事に意識を高めています。朝から玄関掃除、トイレ掃除、洗濯干しなど共に行っていたりしています。 ・安心と信頼の下で看取りの支援もさせていただいています。 ・退去後もご家族がボランティアとして絵画教室を行ってくださったり、他ボランティアさんの活躍を大きく取り入れ入居者様の楽しみや生きがいを提供いただいています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設して16年経ち、蓄積してきた支援ノウハウを活かしながら、同法人の併設施設と相互連携の下に利用者の暮らしを支え、利用者の状態や意向に応じた支援を柔軟に提供している。利用者が地域のお茶の間サロンや夏祭りに出向いたり、地域住民の来所によるハーモニカ演奏や草刈り、裁縫などのボランティアとの交流や周辺散歩での交流が地域住民とつながる機会となっており、利用者の日常的な楽しみになっている。法人給食から配達された食事の取り分け作業や夏祭りの事前準備などを利用者が能力に応じて担い、意欲的に取り組む姿が窺える。終末期の看取り対応について利用者の変化の都度家族と話し合い、家族と連携しながら介護の高まりに応じていく体制づくりに取り組んでいる。多くの家族の希望による協力医の来所往診が利用者の日々の健康管理を支えている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念及び、グループホーム独自の理念と実践十か条を掲げ、朝の3分間スピーチや会議、カンファレンス時に職員で唱和して意識づけが出来ている。	事業所独自の理念と実践10か条を所内掲示し、会議等で理念を唱和し定着するよう努めている。家族へは入居時に伝え、10か条変更時には管理者便りと担当職員の報告で改訂内容を伝え理解に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお茶の間サロン(毎月第2水曜)・公園のゴミ拾い清掃活動・夏祭りの事前準備から模擬店出店等に参加している。また、ご家族、民生委員の方に運営推進会議に参加していただき、意見交換を行っている。	自治会に加入し、地域サロンや夏祭りへの参加と月2～3回の地域ボランティアの来所交流や事業所催事への地域住民の参加の呼びかけで利用者と地域住民が親しく接し、関わりを深められるよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	菩提寺地区で行なわれている「認知症の人の徘徊発見保護訓練」に参加し認知症の方の行動や思いを発信し、地域の方に認知症の方への理解を深めていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの現状報告をし、質問や意見を聞き内容を記録に残し、改善すべき点など何事も言いやすい関係づくりを行っている。	2ヶ月毎に開催し、行政、地域、家族代表が出席し、併設施設と合同開催で情報交換しながら利用者の状況や運営に関するテーマを協議検討している。議事内容は全体会議で報告し周知徹底を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	互いに必要に応じて連絡をとり研修など行う場合に有意義な研修になるよう協力しあう体制がある。また、市の高齢福祉課のサポートを受けながら週2回のいきいき百歳体操を実施している。	高齢福祉課に当面課題や制度上の相談をし助言を受けている。行方不明者が発生した場合に備え地域交番とも連携に努めている。外部評価の内容を報告し助言を得て運営に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成している。玄関の施錠については、夜間を除いて施錠していない。安全を確保する為にせざる得ない内容についてはご家族に説明し、理解をいただいた上で、内容文に署名をいただき納得いただいた上でやっている。	身体拘束関連の外部研修を受講し、会議等で報告し日々のケアに活かしている。利用者と家族の同意を得て顔認証見守りシステムを導入し、予期せぬ外出による事故未然防止に努めている。玄関は昼間は施錠せず、外出時には職員が付き添い同行している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内勉強会で学ぶ機会があり、虐待が行われないよう職員同士の連携をとっている。また、全体会議で「身体拘束・虐待」について学ぶ機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルは作成してあるが、職員全員が活用出来るまでは理解できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は管理者が対応し、互いに契約書を見ながら説明をさせていただいている。疑問点については随時お答えさせていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をしているが、直接申し受ける事が多い。また、ケアプランの説明時に意見、要望を聞く機会を設けている。尚、受けた意見への対応は早期に行っている。	家族会や行事参加時、ケアプラン更新時に家族の意見や要望を聴取している。汲み取った意見は会議で取り上げ運営改善につなげている。オムツもらし時の迅速な対応などの要望を日々のケアに活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者とは年間2回ターゲットプランで面談する機会を設けている。管理者には常時伝える機会が設けられている。	代表者との個別面談や全体会議で重度化した利用者への対応など当面課題を取り上げ検討してる。協議内容は介護ソフト「ほのぼの」で全職員へ周知徹底を図っている。管理者とは日常ケア時に意見交換している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	少しずつ改善されているが、給与水準が明白ではない部分が多い。各職員が納得できる数字化での説明が必要であると言える。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会や職員に応じた研修を受ける機会があるが、実際には勤務体制上、外部研修には積極的に参加できていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年間4回の、ほほえみネットこなんの研修で身近な同業者と交流の機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、本人と面接を行い入居の説明をしている。また本人の要望を聞き、安心して暮らして頂けるよう、本人の意向に添うように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前時には家族の要望を聞き、不安なことなどを解消できるように努めている。本人に細かな変化があった場合にすぐさま連絡できる関係づくりに努めている。家族会などではご家族に意見が言いやすい環境づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネとの連携により必要な情報を全ていただき、本人・家族としっかりと話し合い必要な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自律した生活が送れるよう、出来る事は自身でしていただく事を基本とし、暮らしの中で自分らしい生活を送っていただけるよう工夫をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子などをお伝えし、支援の方法を相談している。また、行事などにお誘いして、共に過ごせる時間の中で本人を含めたご家族と職員が話し合える機会を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問時間を決める事なく、いつでも訪ねて来れる環境を設けている。また、馴染みの店などに買物に出かけたり、サロンでの交流を深めている。	家族からの聞き取りやフェイスシートで、利用者の馴染みの人や場所を把握し、馴染み継続のためにスーパーや飲食店、神社などに出向き支援している。家族や知人の訪問を受け、馴染みの繋がり継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事席などは気の合う方での席を設け、また入居者同士が支えあえるよう配慮している。不仲な関係であったとしても孤独感を抱く事がないように職員が関わる事になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、納涼祭等の行事であったり、ボランティアとして来て下さる家族がおられる。また、思い出の場として懐かしみ来訪して下さる方がおられる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話する時間の中でどのように暮らしたいのかを聞く機会を多く持つ事にしている。毎月個々の担当者がそれを記録にまとめ、本人に必要な支援の内容を検討するカンファレンスを行っている。	業務記録や日々の関わりから、日々変化する利用者の思いや希望を把握するよう努めている。職員が把握した内容は家族からの聞き取りと併せてカンファレンスで情報共有し日々のケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネやご家族から多くの情報をいただくように努めている。また入居時には、ご家族に依頼をしセンター方式を利用してアセスメントを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケース記録を共有し把握するようにしている。職員には確認をした場合はサインを求めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題取り組みを1か月間モニタリングその後評価を行い、カンファレンスで検討を行っている。変化があった場合は介護計画を早急に変更し、ご家族と話合う。変化のない場合は3ヶ月毎にケアプランを見直し、家族に確認してもらっている。	計画は利用者、家族を中心に職員と話し合い、担当者が作成し家族に説明し承認を得ている。状況変化があればその都度、変化がなくても3カ月毎に見直し、家族の承認印を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコン上のケース記録に細かく記録し介護計画につなげている。また確認をした職員にはサインを求めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズの把握に努め、必要や要望に応じ対応しているが、重度化により柔軟な対応が難しい場合がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	重度化により、外出する機会が少なくなったが、地元小学生や学生ボランティア等の訪問が多くなった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の望まれる病院やかかりつけ医師に受診していただく事を基本としているが、大半はご家族の希望もあり協力医院での往診となっている。	夜間に受診が必要な時に家族が対応できない場合が増え、家族の希望もあり現在は殆どの利用者が昼夜を問わず協力医の往診となっている。受診結果は家族と書面、または電話やメールにて連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師には週1回の来訪でバイタル測定を含めた体調管理をおこなってもらっている。また体調変化があった場合は報告連絡相談し、指示をもらうようにしている。また必要に応じて見てもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療との連携を細目に行い、管理者と看護師が主治医や関係者に状況の確認を行い、家族と相談の上、早期に退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期の段階で重度化や終末期の意向確認を毎年1回家族に行っている。また、終末期には主治医から病状を説明を行ってもらい、家族と看取りケアの意向確認の話し合いの場を設けるようにしている。	終末期の対応については、協力医、看護師、管理者、家族、利用者で共有認識できている。家族には、看取り介護についての同意書・計画書、緊急時の意向確認書・看取り確認書を書面にて受取り承認印を得ている。3年前までに8名看取りの経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは用意できているが、定期的な訓練は行っていない。全体会議の場において職員全員で周知するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難訓練は年間4回実施しているが、水害や地震においては出来ていない。	消防署の指導を得て、夜間を想定しての避難訓練も行っている。近隣は比較的若い世代の多い住宅地でもあり、地域住民の訓練への協力体制は構築できていない。	地域役員等の協力を得て、地域の協力体制を築くことを望む。水害、地震を想定した避難訓練の実施を望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけを行うよう細目に指導している。	職員は利用者に対して馴れ馴れしい言葉遣いは慎むようにしている。トイレ誘導も耳元で伺う等配慮している。利用者同士間でも相手の意向を伺って相互に手伝ってあげている場合がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決定権は入居者にある事を各職員が把握し、職員で決めつけない介護に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先するのではなく、出来る事は共に行っていたり、無理強いをしない事としている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の服装や身だしなみのこだわりを理解し、大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人給食の食事を提供している。食事前の取り分け作業は利用者に行ってもらっている。金曜日の夕食については、食材を購入し家庭的な好みの食事作りを行うようにしている。	法人の配食を利用者が出来る範囲で食事準備を自主的に手伝っている。年1回利用者と家族が食事会に出かけたり、レストランや喫茶店、回転寿司等の外食も楽しんでいる。協力医の指導を受け利用者の体調に合わせて献立の工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は全員記録しており、水分については必要に応じて記録している。栄養バランスが不足してしまう方においては家族と相談し本人の摂れる形を取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じて訪問歯科を利用している。また歯磨きの声掛け、歯ブラシ渡し、スポンジブラシ、口腔ウェットティッシュ等個々に応じて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本にしているが、失禁が多くなればからは、家族に相談した上で、リハビリパンツ、パットを使用しながら、トイレ誘導し、自立に向けた支援をしている。	トイレへの声掛けは排泄パターンにより誘導している。利用者の大半がリハビリパンツとパット使用であるが、入居後に2名の利用者が布パンツ使用に改善され、さらなる排泄の自立に向けて努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、飲み物、食物繊維、便秘薬、腹部マッサージ等、主治医や看護師、家族と相談し個々にあった支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間や回数などはできるだけ希望に沿えるようにしている。毎日決まった時間に入浴をしたい方には、そのように応じる事としている。	利用者が好きな時間に週3回は入浴している。入浴を嫌がる利用者には、入浴後の飲み物の話をする等をして気分を解している。金柑やゆず湯等を楽しんでいる。脱衣場にエアコンを設置し暖かくしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中帯は、体調や状態に合わせて休んでもらっている。夜間は、出来るだけ良い睡眠がとれるよう業務改善活動のテーマ「良質な睡眠をとるために日中の過ごし方」をあげて取り組みを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬を理解できるよう、いつでも処方せんなどで確認できるように備えてある。また、症状等気になる事は記録に留めている。また、日付、名前等を読み上げ確認してから手渡しで服用していただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・野菜や花作り・洗濯・ゴミ捨て・食事運び等の中で役割を持ってもらっている。また、日課として散歩をしていただいている。音楽療法は毎月2回やを行っている。ラジオ体操は毎日、百歳体操は欠かさず行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員体制上、希望に添う事は困難であるが、できる限り戸外に出掛けられるよう支援している。外食レク・ドライブなど。	日常的には、近くの河川敷の遊歩道を散歩し、近所のスーパーで買い物もしている。正月用の生け花を近くの花屋へ出掛け購入している。コスモス畑へのドライブや希望が丘への紅葉狩りも楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使える方にはご家族に依頼をし、お財布を用意していただき必要に応じて使用していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由にしていただげるよう設置している。また支援が必要な方にはできるようサポートしている。個人で携帯電話を持っておられる方もいる。年賀状を家族宛てに書く支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に美しく、清潔に心を掛けている。季節が感じられるよう、居室はもとより共有部分においても外が見える部分が多い。季節に応じた飾り付けも行っている。	台所や食堂・居間は広く、中庭に面した窓は明るく開放的で四季折々の花木を眺められる。居間にはクリスマスの飾り付け、廊下には利用者の額絵等が飾られ、金魚が泳ぐ水槽もある。広いデッキには散髪用具が設置されている。トイレ、浴室は清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、居室以外にも共有スペースがあり、独りになりたい場合に使用できる。廊下の途中には椅子を設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新しいものではなく、本人の使っておられたものを持ち込まれるようにしている。また、配置も出来るだけ従来の生活に近い形に出来るよう、配慮している。	各居室は庭に面して窓があり、花木を眺められ、明るく開放感がある。思い思いの馴染みの小物、机や敷物、炬燵等も持ち込み、居心地の良さが伝わってくる。十分な広さで暮らし易い居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じて、トイレや居室の明示をしている。また、朝から玄関掃除やトイレ掃除を自発的にしていただげるよう「見てわかる化」をしている。		

事業所名 グループホームぼだいじ

作成日: 平成31年1月24日

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	地域役員等の協力を得て、地域の協力体制を築く事を望む。水害、地震を想定した避難訓練の実施を望む。	地震を想定した避難訓練の実施を行う。	火災訓練については年間4回行なっているが、その内の1回は地震を想定した避難訓練を行う事とする。	4ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。